



# 三本桜

第27号

ふかく考える子    あたたかみのある子    がんばりのきく子  
10月の目標：好きな本を見つけよう

## 他者理解

先日、とある大型商業施設に行きました。そういう場所のトイレには扉がなく、折れ曲がった通路が入口になっています。男性用トイレに行こうと途中まで中に入ったとき、「ドキッ！」として慌てて引き返しました。内装壁の柱の色が薄いピンク色だったので、「しまった、間違えた!」と思ったのです。入口の表示マークを確認すると、男性用マークだったので、胸をなでおろしました。男性の方はわかると思うのですが、一般的に男性用トイレの内装に赤やピンクなどの色が使われていることはありません。男性用トイレの表示マークは青や黒、女性用トイレは赤やピンクが一般的です。だから、トイレで青・黒系といえば男性、赤・ピンク系は女性と思うのは、私だけではないと思います。内装の色はマークの色ほど区別されていないものの、逆の色を経験したことはありませんでした。

また、何日か前、テレビ番組で、「性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に関する調査（内閣府男女共同参画局）」の結果について話をしていました。「アンコンシャス・バイアス」とは自分自身の経験から築かれた無意識の思い込みや偏見のことです。『男（女）はこうあるべき、こういうものだという考え』は多かれ少なかれ誰もがもっていると思います。テレビの話を聞きながら、いろいろ考えました。私が子どもの頃は、ランドセルは男子が黒、女子が赤と決まっていると思っていました。

自分が教師になり、時代の流れとともに色が豊富になり、黒が男子、赤やピンクが女子という分け方はなくなりました。子ども本人が選んだ好きな色を背負うようになったのでしょうか。

「〇〇はこうである、こうしなければいけない」という考えは、差別になることがあります。時代とともに、差別意識から生じる問題についての多くが見直されてきました。一方、差別ではなく区別という分け方があります。生物学的に男女の違いがある以上、区別しなくてははいけないことはたくさんあります。トイレや浴場もそうですが、ほとんどのスポーツ競技は男女別です。一緒に協議したら体力差というハンディが問題になります。学校でも、体育の着替えは男女で場所を分けるようになりました。一緒ではいやだ、困るという人がいれば問題が生じるからです。

人には違いがあり、考え方も様々です。しかし、区別は否めない中でも、差別にならないようにしていくことが大切なのだと思います。グローバル化が進む中で、今やいろいろな国籍の方が身近にいて、日々、一緒に社会生活を送っています。私たちが考えていかななくてははいけないこと、そして、子どもたちに伝えていかななくてははいけないことは、「こうでなければいけない」という偏った考えではありません。あくまで、道徳倫理に反しない範囲ですが、「多様性を受け入れること」「広い視野をもつこと」「他者を理解すること」だと思います。

## 高学年の集い

28日(火) 3・4限、5・6年生が運動場に集まり、ドッジボールや宝探し、鬼ごっこを行って体を動かしました。ぽかぽか陽気の中、心地よい汗をかくことができました。

低学年、中学年はバス遠足で、校内は高学年だけ。ハッスルプレーで思う存分に楽しむことができたようです。その後、屋外で食べたお弁当も格別だったようです。保護者の皆様、ありがとうございました。

